

浦山ダム貯水池における淡水赤潮の発生について

平素より、浦山ダムの管理にご理解とご協力をいただきありがとうございます。
ございます。

浦山ダムの下流では、秩父市の橋立浄水場による取水がおこなわれていますが、4月16日、同浄水場の水道水に淡水赤潮の原因となる植物プランクトンの一種であるペリディニウムが混入しているとの情報を水道事業者様からいただきました。

橋立浄水場から給水されている住民の皆様、また、秩父市の関係者の皆様、水道事業者様には、ご心配ならびにご迷惑をおかけしたことに對しお詫び申し上げます。

浦山ダムでは、平成21年3月中旬以降淡水赤潮が確認されたことから監視を強化してまいりました。

4月16日には、ペリディニウムの少ない水深の深い場所から取水し下流へ放流すると共に、貯水池に流れ込む直前の川の水を直接下流へ放流できるよう、清水バイパスの運転を行うことにより、極力ペリディニウムの影響が生じないように対応させていただいております。

水深の深い場所からの取水となるため、水温の低い水を放流することとなる恐れもありますのでご理解のほどよろしく願いいたします。

なお、ペリディニウムは、通常、春や秋に多く確認されるものです。国内では、このペリディニウムによる人体への影響については報告されていません。

浦山ダムでは、的確な水の供給に努めて参りますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

平成21年4月17日

独立行政法人水資源機構
荒川ダム総合管理所長